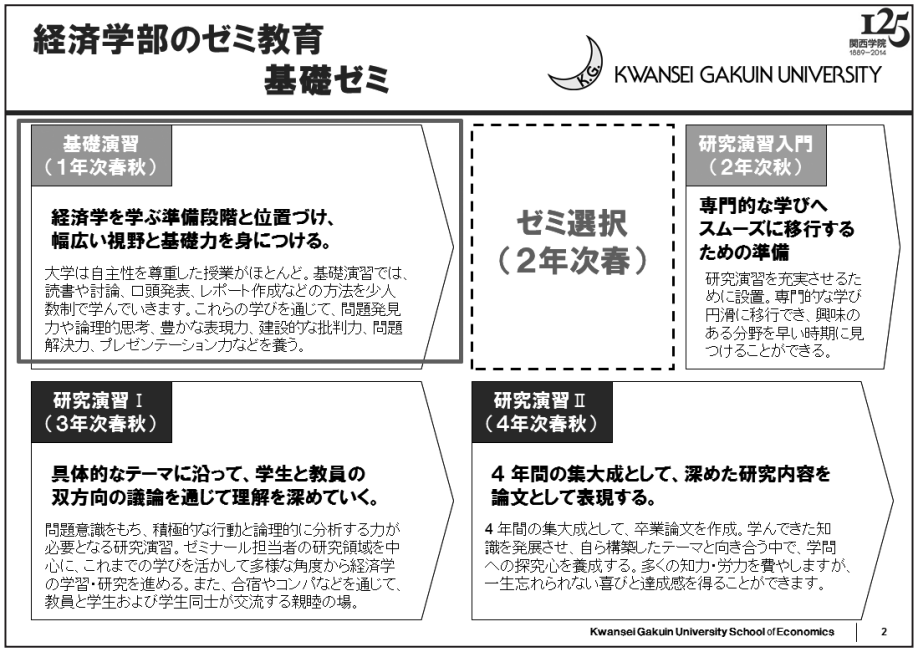
経済学部のゼミ教育・キャリア教育の取り組みと課題

栗　田　匡　相（関西学院大学　経済学部准教授）

1. 経済学部におけるゼミナール教育の位置づけ

経済学部で学部長補佐をしております栗田と申します。本日は「経済学部のゼミ教育・キャリア教育の取り組みと課題」として、経済学部全体の取り組みを中心にお話しさせていただきたいと思います。

以下のスライドは、経済学部の１年生から４年生までのゼミナールの流れを示したものです。経済学部では、１年生から基礎演習が始まり、１クラス20人ぐらいの少人数教育を実施しています。２年生の春学期にゼミナールの選択を行いまして、その後、２年生の秋学期からゼミナールが始まり、３年生、４年生と続くことになります。



まず、基礎演習ですが、目的は経済学を学ぶ準備段階として幅広い視野と基礎力を身に付けることにあります。具体的には、高校を卒業して入学してきたばかりの学生が多いので、文献検索の方法やリポートの書き方、非常に基礎的なプレゼンテーションやディベートの方法などを一緒に学んでいく授業です。この基礎演習の特徴的な取り組みを２つお話致します。

１つ目は１年生全員が参加するスポーツ大会です。５月上旬の土曜日に開催し、入学直後の時

期に基礎演習のクラスで力を合わせることにより、連帯感や基礎演習に取り組みやすい環境を与えることを目的としております。

２つ目はインターゼミナール大会です。ディベートをする大会ですが、これは11月中旬の土曜日に開催しています。先ほどのスポーツ大会が体を動かして連帯感を高めるのに対して、こちらは基礎演習対抗のディベート大会で、活発な議論やコミュニケーションを図って連帯感を高め、学習能力の向上を図ることを目的としております。実はこのインターゼミナール大会は、１年生が午前中にディベート大会を行い、午後に３年生、４年生の研究発表もしくは、ディベート大会が行われます。実は、このような取り組みを教員や事務職員だけで進めていくには非常に難しいので、エコゼミ委員会と呼ばれる経済学部の学生団体が活躍してくれます。彼らが、教員や事務職員とコミュニケーションを取りながら、スポーツ大会とインターゼミナール大会の企画・運営をしてくれています。

その他にも10月の土曜日に関関戦として、関西大学とのディベート大会もしくは研究報告会を経済学部独自に開催しており、ここでもエコゼミ委員会の学生たちが運営面でのサポートをしてくれます。またエコゼミ委員会では、経済学部の教員とともにエコノフォーラムという雑誌を発行しており、その事務的な手続をサポートしてくれています。このエコノフォーラムは、ゼミナールでどんな勉強をしているかということや経済学の基礎知識などを掲載しています。

2. 教育支援体制

次に、教育支援体制についてですが、学習をスムーズに行なうためには、経済学部として教育支援体制を確立することは非常に欠かせないと考えています。先ほど村田センター長からもお話がありましたように、アクティブ・ラーニングを進めるためには、活発な学生同士の討論が必要ですので、経済学部では、学生用の学習スペースを経済学部棟の中に設置しており、図書館側の

入口近くと地下１階には、学生が使える談話室も設置しています。両方とも自由に、講義の空き時間等に利用できる部屋です。また、ゼミナールの発表やディベートの準備などの打ち合わせ用に学生ワークルームが１階にあります。また準備にパソコンが必要ですから、１階にある資料準備室でノートパソコンを学生に貸し出しており、自由に使えるようにしています。

3. 専門ゼミナール教育

次に、専門のゼミナール教育に話題を移しますが、２年生の春学期にゼミナールの選択期間を経て専門ゼミナールに所属します。３・４年生の専門ゼミナールである研究演習は、他学部でも当然ありますが、経済学部の特徴的なこととしては、２年生の秋学期から始まることです。３年生以降の専門学習に向けての準備期間として、専門学習をスムーズに移行できるための時期になっています。また、就職活動が徐々に早くなってきており、研究をする時間が３年の春からになると、３年生の秋学期が就職活動で潰れて継続的に時間を取れないので、２年生の秋学期から始めて、１年間じっくり研究に充てるという目的もあります。

ただ、２年生の春学期にゼミナールがありませんので、それを埋める経済学部独自の取り組みとして、キャリア教育を実施しています。４つの講座が開かれていますが、本日は、「キャリアデザインと仕事」、「キャリアワークショップ」の２科目について、ご説明致します。

2012年度以降の入学生は、ライフデザイン科目から２単位を必修科目にしています。「キャリアデザインと仕事」は、関西学院大学経済学部の OB、OG の方にお越しいただいて、現在の仕事についての講義を行なっており、「キャリアワークショップ」はゼミナール形式で授業を実施しております。具体的には、企業の方々を講師に迎えまして、企業の社員研修を学生版にアレンジしてもらい、働くとは何かということを学生に考えさせることや、さまざまなテーマについてプレゼンテーションの機会を与えることなどを展開しております。2013年度は三井住友銀行様の

クラスと、大日本印刷様、NHK 様そして野村證券様の３社が合同で実施していただいたクラスの合計２クラスを開講しました。非常に活発な議論が行われており、大変好評であったと聞いております。「キャリアワークショップ」は、少人数クラスで、非常に人気科目になっておりますので、１年生の秋学期に選考を行なっています。

4. その他の取り組み

さらに経済学部では、キャリア教育の一環として学生が将来をイメージできるような工夫を行なっています。具体的には、ウエブサイトで「われら関学経済人」というコンテンツを作成し、経済学部の卒業生で、社会で活躍されている方々を随時紹介しています。今の学生たちからは、将来のビジョンをうまく持てないということをよく聞きますが、社会で活躍されている方を紹介することによって、学生に１つの道を見せていければよいと思っております。これはおおよそ３年前から始めており、毎月１名のペースで紹介をしております。

また、昨年からはフェイスブックも立ち上げております。現在、経済学部でどのような取り組みを実施しているのか、企画されているのか、学生がどのような活動をしているのかといったことを知ってもらうことを目的にしています。実は、現役の学生達も意外と知らないこともありますので、現役の学生同士や卒業生とも縦や横の繋がりを深めることも目的としています。上記以外の取り組みとして、言語科目担当教員による専門ゼミナールを開講することや、次年度からのゼミナール選択方法も希望のゼミナールに入りやすいように、選考のプロセスを変更するなどの工夫をしております。

5. 今後の課題

最後に今後の課題として、ゼミナールは必修科目とはせずに選択科目に変更しましたが、それほど多くはないですが、就職活動を終えた学生がゼミナールをやめてしまう事例がでてきました。つまりゼミナールが就職活動で自己 PR で話すための実績づくりとなっており、このような学生に対して、フォローアップが必要だと感じています。また、キャリア教育は、１・２年生の学生に対して取り組んでいますが、非常に人気の科目であり、また学生からの満足度が非常に高い科目になっていますので、３年生以降もキャリア教育を続けたほうが良いのではないかと考えています。

以上で、経済学部の報告を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。